

## A 班

### テーマ：「資源の有効活用ができる浜頓別」

<ul style="list-style-type: none"> <li>・水と空気がおいしい</li> <li>・地下水が安定していることは知られていない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活用と開発の研究に具体的に取り組む</li> <li>・水と空気を売りに出す（企業を引き込むなど）</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・クッチャロ湖</li> <li>・ツルが増えている</li> <li>・白鳥が多い</li> <li>・夕日がきれい</li> <li>・水産資源がある</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ツルを呼び寄せる研究</li> <li>・ツルと農業の共存</li> <li>・白鳥をモチーフにしたお土産作り</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・観光</li> <li>・冬の観光が少ない</li> <li>・温泉（泉質2位）</li> <li>・泉質のアピール（ができていない）</li> <li>・冬のイベントがない</li> <li>・お土産がない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コテージ増設（バリアフリーのものも）</li> <li>・観光客を呼べるホテル</li> <li>・外国人</li> <li>・あらたなイベント</li> <li>・冬のアクティビティ</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・酪農、漁業の特産品がない</li> <li>・日本の全粉乳は、浜頓別のよつ葉</li> <li>・個人で製品をつくっている人はいる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・町での製品開発</li> <li>・水産加工のブランド化</li> <li>・農業、乳業の加工（チーズ、その他）</li> <li>・育てる漁業（ウニ、コンブ、カニ）</li> </ul>

- ・テーマは、「資源の有効活用ができる浜頓別」。
- ・水と空気が美味しい町民は知っているが、あまり知られていないのではないか。
- ・地下水（水脈）が安定している
- ・このような町の資源が活用されるように研究されているかということ、具体的にされていない。こういうところから着手したらどうか。水と空気を売り出せないか。企業を引き込むなど
- ・クッチャロ湖についても、クッチャロ湖と言えば白鳥だが、鶴が増えてきている。鶴を呼び寄せる研究もしていかなければならないのでは。呼び寄せた際のデメリット、農地の方に行くと被害も出る。共存させることを今から考えていくことも必要。

- 白鳥をモチーフにしたお土産ももっとあってよいのでは
- 冬の観光が少ない。
- 温泉の泉質2位。メリットだが、全国の人が聞いてどう反応するのか。泉質2位ってなんだろう。もっと具体的にメリットをアピールすべき。
- 冬のイベントも少ない。
- 今評判なのはコテージ。夏場はもちろんだが、冬場も結構埋まっている。増設してもよいのでは。
- 外国人も含めて、観光客が呼べるホテルも検討しては。特に外国人。ターゲットも含めて検討が必要なのでは。
- 新たなイベントと冬のアクティビティについては、スキーは他の地域に行くことも多いので、浜頓別でできるアクティビティは何ができるのかを考えることも必要。
- 産業については、酪農漁業における、他の町村に勝てる特産がないのでは。ただ、日本の全粉乳の6割は浜頓別の工場で生産されている。個人で加工品をつくっている人はいるので、町でも製品開発やブランド化、農業分野で言えば、チーズやビールなども考えられないか。水産業では育てる漁業を進めて行くことが必要なのでは。地元の就労にもつながっていくと思う。

## B班

### テーマ：「楽しく明るい町」

#### 観光客をいかす

<ul style="list-style-type: none"><li>・海、山、川、湖、季節感、白鳥、花、海産物、温泉（など、観光客にアピールできる、町の魅力がある）</li><li>（特産品が少ない）</li><li>（飲食店が少ない）</li><li>（お土産、買える場所が少ない）</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・特産品の充実</li><li>・飲食店の充実</li><li>・お土産屋の充実</li></ul>
--	--

#### 町民をいかす

<ul style="list-style-type: none"><li>・高校がある</li><li>・スポーツ施設（が充実している）</li><li>・イベント（が多い）</li><li>（生活用品を買う場所が少ない）</li><li>（町民が日常的に利用できる飲食店も少ない）</li><li>（病院にかかりづらい医療環境）</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・生活用品の充実</li><li>・飲食店の充実（子連れでも行ける）</li><li>・医療の充実</li></ul>
--	---

- ・前回から話の出ている、土産屋さんのこと、資源をいかすことに加えて、生活環境の整備についても具体的に協議を行った。
- ・テーマは「楽しく明るい町」として、大分類として、「観光客をいかして楽しく明るい町にしよう」と「町民をいかして、楽しく明るいまちにしよう」の2つ。

#### <観光客をいかす>

- ・弱みとして、ホタテや鮭などの町の特産品を加工したものがないことがあり、それを充実していくことが必要。
- ・飲食店も、昼間や夜に食べるところが最近少なくなってきているので、飲食店の充実。
- ・ホタテや鮭などを加工しても、お土産として売るところがないということで、お土産屋さんの充実。
- ・強みは、浜頓別町には資源がたくさんあるということ。海、山、川、湖、季節感、白鳥、花、海産物、温泉、これらたくさんの資源をPRすることが必要。具体的には、町

内のバスツアーを企画して、自然が豊かなところなど町内の観光スポットをまわったらどうか。

#### <町民をいかす>

- 「町民をいかして、楽しく明るいまちにしよう」として、町民の生活環境についてまとめた。
- 生活用品、子どもの教材など日用品が気軽に町内で買えないので、これからできる交流館など町内でフリーマーケットを開催したり、リサイクルショップができると町民同士で利用できて良いのではという意見もあった。
- 観光客のいかす取り組みの弱みとも重複するが、町内の人々が気軽に家族連れで利用できる飲食店も少ないということで、飲食店の充実も具体的に考えていかなければならない。
- 医療の充実。お年寄りの医療も大事だが、小児科など子どもが病院にかかりづらい状況なので、(具体的な内容までは挙げられなかったが、) 必要と思われる。
- 生活環境の強みについては、地元には高校があるということが、改めて考えるとある。近隣にはないので浜頓別町に通ってきているのでありがたい強みである。
- スポーツの施設、町内に体育館が2つあったり、野球場やサッカー場、テニスコートもある。子どもも含め生涯スポーツを行う環境としては、浜頓別町は良いところだと思う。
- 湖水まつり、ふるさとまつりなど、町外の人とも町民とも気軽に交流できるイベントが浜頓別町にはたくさんあるので、そういった面をいかしていくということも必要。

## C班

### テーマ：「食の豊かな浜頓別」

～ 飲食店の増店と強化の取り組み ～

#### お弁当屋（をつくる）

- ・営業日は週3～4日程度（土日込み）
- ・時間は9:00～17:00程度（弁当の販売時間は別）
- ・弁当は、農協、漁組、ウイング、浜頓別ホテル、スーパーなかむら、ゆめ、福龍などに協力を要請して週替わりで提供
- ・山菜や海産物を、旬の時期に合わせて提供（いずしや漬物なども提供）
- ・主に集まるスペースを提供。主旨で営業（仕切りをつける）
- ・各種自動販売機を設置（食べ物、飲み物、お菓子など）
- ・町のイベント等で作ったものの販売を行う
- ・有線テレビ

◎最終的には、手作りのパンの販売や、ケーキの販売等に拡大させていけたら…

（パンづくりスペースで町民を集めて教室を開き、作ったパンを販売）

- ・前回、雇用関係で話を進めてきたが、今回は目線を変えて、新しく何かをやるというよりも、今あるもので何ができるかという目線で考えた。
- ・テーマは、「食の豊かな浜頓別」
- ・主に飲食店の増店と強化についての取り組みを検討し、「お弁当屋さんを新たにつくる」という取り組みを考えた。
- ・営業日は週3～4日程度で、主に土日。時間はお年寄りのみなさんが集まれるような9時から17時程度。夕方は高校生が来ることも想定する。
- ・集まる場所として提供するスペースが必要。
- ・お弁当の内容としては、希望ではあるが、農協や漁組、ウイング、浜頓別ホテル、スーパーなかむら、ゆめ、福龍などに協力を依頼し、週替わりのお弁当を提供できないか。
- ・食べられる場所を用意し、飲み物はセルフなどで用意して、人が羽根をのばして、ものを食べたり、集まっておしゃべりしたり、休んだりできる場所ができないか。
- ・時には、旬の時期にものを特産品として販売し、お土産としても利用してもらおう。

- 町のイベントなどでつくったパンやお菓子屋なども、このような場所で提供できるようになれば人が集まることができるのではないか。
- さらに話が出てきたのが、各種自動販売機の設置。例えば、食べ物であったり、飲み物であったり、お菓子といったものが買える自動販売機を設置したり、最終的には、パンをつくったりできる場所を設置して、手作りのパン教室ができて、そのパンが販売できるということができたらという希望も出てきた。
- まずは、ちいさくてもできるところから始めていって、どんどん拡充していく。

## D 班

### テーマ：「出て行っても、戻ってきたい町」

<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの遊び場がない。</li> <li>※特に冬。夏は公園がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・交流館に期待</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・小児科がない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・電子（通信）診療</li> </ul>



<ul style="list-style-type: none"> <li>・「遊びに行くなら都会。住むなら田舎」</li> <li>・若者が遊ぶ場所がない。</li> <li>・（田舎なのは良いが）就職先がない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>（遊び場をつくる）</li> <li>（就職先をつくる）</li> </ul>
---	--



・セブナイレブンを誘致  
 ・既存の施設を使った、アミューズメントパークをつくる。

- ・テーマは「出て行っても、戻ってきたい町」ということで、前回は、高齢者の福祉について考えたので、今回は子どもや若者が住みやすい、戻ってきたい町という考えで考えた。
- ・まず、子どもの遊び場がない。特に、夏は公園があるが、冬は遊び場がない。こども園に行ったりもするが、有料でもあるので、気軽に行くことはできない。
- ・そこで、例えば、交流館の中に遊び場をつくる。例えば、幌延の生涯学習センターは、入ると真ん中がガラス張りになっていて、その中に、ボールプールやすべり台があったりして、気軽に入って遊べるので、このようなものが浜頓別町にできないか。
- ・小児科がない。月1回しかかかれない。しかし、小児科医を呼ぶのは実質無理であり、例えばスカイプなどを使って電子診察ができないか。コスト度外視の話ではあるが。
- ・次に、若い人たちが戻ってくるためにはどうしたらいいか。
- ・北海道には179市町村あるが、「浜頓別町以外で必ず就職できるとなったら、どこの町に住みたいか」と考えた時、以外と札幌はいない。たまに遊びに行きたいとは思いますが、人がごみごみしているから住みたいとは思わない。だいたい、旭川とか名寄ぐらいがベターだという話になった。浜頓別町と何が違うのかと考えると、旭川や名寄は、適

度に使えるものがある、適度にごみごみしていないぐらいがいい、ということだが、ごみごみしていないという点では、浜頓別町も同じであり、違うことは、利便性や、遊ぶ場所の少なさなど。そういうことからアミューズメントパークをつくるという話が出てきた（コストは度外視）。アミューズメントパークの中身としては、カラオケボックスやボーリング、ゲームセンターなど。

- 町内は既存の施設はいっぱいあるので、そこを改装するという話もあった。
- アミューズメントパークができれば、仕事になるが、収益をあげなければならない。そのためには人を呼ばなければならない、でも人がいない…ということで難しさもある。
- もうひとつは、セブンイレブンを誘致したい。
- もっといろいろな具体的な話は出てきたが、結局、突き詰めて考えると「遊べるところ」「便利な場所」という話になった。
- 次回、時間があったら、もう少し具現化できたらと考えている。